

令和3年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(八基小学校)

平均正答率

(単位 %)

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
八基小	52.2	50.8	66.7	61.4	56.5	61.7
埼玉県	58.0	56.7	58.6	69.9	61.6	60.9

質問紙調査より

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの1

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値

(単位 %)

	質問事項	小4		小5		小6	
		八基小	埼玉県	八基小	埼玉県	八基小	埼玉県
生活習慣	・脱いだ履き物のかかとをそろえる	92.9	83.3	96.2	83.6	100	86.8
	・相手の顔を見て、はっきりあいさつをすることができる(小4) ・自分からはっきりあいさつをすることができる(小5、小6)	92.8	78.5	84.6	78.2	93.3	78.0
	・相手の気持ちを考え、やさしい言葉づかいができる	92.9	84.6	96.2	84.6	100	84.1
学習習慣	・学校の宿題をしている	85.7	94.9	96.2	96.2	100	96.1
	・学校の授業の予習や復習をしている	71.4	69.3	84.7	69.9	93.4	70.0
	・平日、学校の授業時間以外に1時間以上勉強している(塾等を含む)	35.7	51.1	73.1	58.3	93.4	64.9
学習等への関心	・勉強することが楽しい、好き(勉強する理由として)	85.8	70.0	80.8	63.8	93.3	57.8
	・勉強は将来の進学や就職に役に立つ(勉強する理由として)	92.8	88.3	92.3	88.7	100	90.8
	・地域の歴史や自然に関心をもっている	92.8	77.5	92.3	70.9	100	63.7
その他	・自分には、よいところがある	71.4	80.2	80.8	77.9	86.7	69.8
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	78.6	80.3	84.7	79.9	93.3	75.8
	・将来の夢や目標をもっている	85.7	89.0	92.3	88.3	93.3	83.4

八基小の「よかった点 (○)」と「課題 (●)」

【国語】

- 4年生は、敬体・常体を統一し、よりよい表現に直して書く問題で、県の正答率を17%上回っている。
- 5年生は、同音異義語の漢字を文脈に即して正しく使う問題で、県の正答率を14%上回っている。
- 6年生は、文章の構造や内容を理解して、抜けている文を適切な位置に入れる問題で、県の正答率を20%以上、上回っている。
- 4年生は、反対の意味の言葉を書く問題で、県の正答率を33%下回っている。
- 5年生は、主語と述語を書きぬく問題について、県の正答率を36%下回っている。
- 6年生は、漢字を正しく書くことについて、県の正答率を10%～16%下回っている。

【算数】

- 4年生は、3位数のたし算や数の比較の問題で、県の正答率を4.5%上回っている。
- 5年生は、「仮分数のひき算」「四則混合の計算」「余りのあるわり算」において、県の正答率を上回っている。
- 6年生は、円グラフの見方と百分率・単位量当たりの大きさについて、県の正答率を10%程度上回っている。
- 4年生は、整数を10で割った数の表し方について、県の正答率を34%下回っている。
- 4年生は、三角形の性質を求める問題で、県の正答率を25%程度下回っている。
- 5年生は、文章を読み、その関係をもとに1枚あたりの値段を求める問題で、県の正答率を23%下回っている。
- 5年生は、台形を並べたときの数と周長を△と□の式に表し、変化の関係をとらえる問題で、県の正答率を20%程度下回っている。
- 6年生は、「割合の求め方」「分数を小数に変換する」「立体の体積を求める」に関して、県の平均を大きく下回っている。

【質問紙】

- どの学年も、「勉強することが好きで楽しい」と感じている児童の割合が県と比べて高い。
- どの学年も、「学校の予習や復習をしている」と答えた児童の割合が県と比べて高い。
- 地域の歴史や自然に関心をもっている児童の割合が、県と比べてとても高い。
- 6年生は、生活や学習の習慣が身に付いている。学習への関心もあり、自己肯定感が高い。
- 4年生は、平日における家庭(塾も含む)での学習時間が、県を大きく下回っている。
- 4年生は、県全体の児童よりも自己肯定感が低い傾向にある。
- 5年生は、「自分からあいさつできる」と答えた児童の割合が県を上回っているが、本校の他学年の児童より、その割合がやや下回っている。

課題への取組・改善策

【国語】

- ・漢字は、10問テスト等を定期的に複数回行って定着させるとともに、その漢字を文章の中で正しく使えるよう短作文づくりを行う。(主語・述語を意識させる。)
- ・新しい単元に入る前の、言葉の意味調べを定着させる。
- ・語彙を増やせるよう、読書の習慣を継続的に身に付けさせていく。

【算数】

- ・朝学習のときに担任外が各学年に入ることを継続して行い、基礎学力を身に付けられるよう指導する。
- ・朝学習や余剰時間を使って前学年の復習をするなど、学習内容の定着を図る。
- ・図形や測定の領域では、具体物を用意してイメージをもたせたり、日常生活体験をとおして感覚を身に付けさせたりする。
- ・文章問題や変化の関係の問題などでは、表や図を書き、見当をつけて解く練習をする。

【その他】

- ・4年生は、県と比べて予習や復習をしている児童の割合が高いが、学習時間が短い。自主学習の方法を提示したり、丁寧に行わせることを意識させたりして、質と量を調整していく。
- ・自己肯定感を高めるために、「失敗する経験も大切であること」「挑戦することは大切であること」等について、道徳の授業や日常生活の中で高められるよう、職員で話し合い、進めていく。

